

東日本ユニオン

TOKYO

JR東日本労働組合東京地方本部

発行責任者 郷 重雄

発行 教宣部

2018年 6月7日 NO. 64



夏季手当第1回交渉を行う

本部交渉団は5月31日に申第14号「2018年度夏季手当に関する申し入れ」の1回目の団体交渉に臨み、要求の趣旨説明を行い、経営側に満額回答を強く求めました。

組合側趣旨説明（要旨）

●2017年度期末決算は、単体、連結決算ともに増収増益とし過去最高とするなど、単体・連結とも大きな成果を実現できたのは、安全安定輸送を基礎に地域と密着した経営施策を実践することで収益をあげるとともに、効率化を担う中でさらに働き方を工夫し、主体的にコストを削減することで利益を確保するために努力し、JR労働者の生み出した結果に他ならない！

●当社のコストに関わる部分で注目しているのが「乗務員勤務制度の見直し」である。手当等も見直すと言われているが、内容については未だ明らかにされていない。夏季手当は一時金という性質を帯びており、業績連動ということが一番の肝に据えて結論を導き出すべきである。そういう意味では、掛かるコストばかりで数字を導き出すのであれば、それは本来あるべき姿とは違う！

●過去最高の期末決算を実現させたグループに働くすべてのJR労働者の努力はもとより、有期雇用の不安を乗り越え、今や人材育成の重責をも担うグリーンスタッフの努力、国鉄改革を経てJR東日本グループの発展の礎を築きあげたのみならず、今なお技術を磨き、継承するための努力を続ける中で、昇給停止、または経過措置を適用されている55歳以上のJR労働者の努力に報い、来期の増収増益実現に向けたモチベーションへつなげるための成果配分として理性的に導き出した要求であり、要求に対する満額回答は重要な要素である

職場で黙っているだけでは、満額獲得できません！

全JR労働者が声を上げ

満額獲得にこだわろう！